Management Club Report

Apr.2017/Vol.172

Monthly Opinion　≪あらためて考える“上質とは”≫

最近、ゴールデンタイムを数時間も独占してしまうようなテレビ番組の共通項があります。メイド・イン・ジャパンの素晴らしさを伝える番組です。これらの番組を観ていると、「アメリカは凄い！」と唯々驚き憧れていた我が少年時代を思い出し、半世紀ほどでその立場が逆転してしまったかのような現状に改めて驚き「日本は凄い！」と感じ入ってしまいます。

振り返れば、敗戦後70年余を通して達成してきた日本の経済成長は優れて製造業の頑張りと努力に負うところ大でした。自動車、家電、精密機械いずれをとってもその品質は年々改良され、「痒いところに手の届く」繊細な配慮と細やかな工夫が施され続けてきた結果、かつての工業先進諸国の製造業を凌駕するまでになったのです。

工業技術のきめの細かさは日本文化の繊細さにその源流を求めることができます。繊細さの追求は、近年世界各国からの訪日観光客が絶賛してやまない工業製品や食べ物や人の応対の上質さとなって世界中の人々の心を打つようになったところに表れています。

先日ある歯科医院の移転開業記念会に招かれたときの話です。挨拶に立った院長が、インプラントの専門医としての技量を磨くべく渡米し 1 年間学んだ結果多くのことを学んだという話をしましたが、学んだことのひとつは、皮肉にも「日本の歯科医療技術は繊細で素晴らしい。アメリカに決して負けるものではない」ことだったそうです。まさにアウトサイダーとしての見方で、強く心に残りました。

かつて我が国では MADE IN U.S.A.こそが高級品、上品質との神話がありましたが、それは既に過去のものとなったようです。翻って日本製は本当に上質なのか？日本の歯科医療は上質と胸を張れるのか？今回は改めて「真の上質とは何か」を考え直してみたいと思います。

1　上質さの源泉は伝統的な日本文化にあり

日本について誇りに思うこと

博報堂生活総合研究所が行っている意識調査があります。いろいろな事柄についての国民の意識をアンケートし、そのランキングを毎年比較するという“定点観測”を行っているのですが、その中に「日本の国や国民について誇りに思う